Air Line Pilots' Association of JAPAN

ALPA Japan NEWS
日 乗 連 ニ ュ ー ス

Date 2021. 5. 12 No. 44 – 20

発行：Air Line Pilots' Association of Japan
日本乗員組合連絡会議
企画会議
〒144-0043
東京都大田区羽田 5-11-4
alpajapan.org

第 75 回 IFALPA WEB 年次総会 出席報告（その 2）

3. 各国の新型コロナウイルスワクチン接種状況

各国の新型コロナウイルスワクチンの接種状況について、以下の表のとおり纏めました（4 月 1 日現在）。

国名	国内接種割合/人数	乗員へのワクチン接種状況	優先接種
インド	0.9%	希望者への接種完了	有
インドネシア	1.9%	未定	無
オーストラリア	114 万人	希望者への接種開始済み	
オーストリア	6.9%	希望者への接種開始済み	有
カナダ	2.1%	未定	無
クロアチア	2.5%	未定	無
シンガポール	9.4%	希望者への接種完了	有
スリランカ	92 万人	希望者への接種開始済み	有
トルコ	9.2%	近日中に接種開始	有
ドイツ	5.9%	3 番目の優先順位で接種開始	有
ニュージーランド	0.4%	希望者への接種開始済み	有
ノルウェー	5.5%	未定	無
バングラデシュ	582 万人	希望者への接種開始済み	有
パキスタン	111 万人	希望者への接種開始済み	有
マレーシア	1.2%	乗員分の確保済み	有
英国	10.5%	未定	
韓国	0.1%	6 月より開始予定	有
香港	3.1%	乗員分の確保済み	有
台湾	2 万人	5 月頃から開始予定	有
中国	1.64 億人	希望者への接種完了	有
日本	0.4%	夏以降？	無
米国	21.5%	週により異なるが、接種は開始済み	一部有

4. 航空機メーカーによるプレゼンテーション

IFALPA 総会のスポンサーとなる、エアバス社、ATR 社、ボーイング社、そしてエンブラエル社の 4 社によるプレゼンテーションが行われました。

エアバス社：Captain Tim Roach 氏

トピックとして「Unreliable Airspeed」を取り挙げました。Taxi out から上昇フェーズで多くが起きており、離陸操作中のモニターが重要であることを強調しました。

ATR 社：Christopher McGreor 氏

CBTA プログラムにそった訓練について、ATR の取り組みが紹介されました。

ボーイング社：Capt Jim Webb 氏

B737-MAX の運航再開に至るプロセスの説明があり、ボーイング社においては「安全が最優先事項であることに変わりがない」ことを強調しました。

エンブラエル社：Capt Celso Fonseca 氏

E2 Product & Program Update を行いました。シリーズの E175-E2 に関して開発生産の近況を紹介し、予定では 2023 年からの供用開始となるとのことです。

5. 選挙

IFALPA の Executive Board（執行委員会）には 10 名が在籍（議長、副議長、技術担当、財務担当、外交担当、5 地域の代表者）しており、今回の選挙で数名が改選となりました。出身地域別に見ると、欧州：3 名、北米：3 名、アジア太平洋：2 名、中南米：1 名、中東・アフリカ：1 名という、世界的なバランスを考慮した人選となっています。各人のプロフィールはこちらをご参照下さい。

また、IFALPA アジア太平洋地域には、Executive Board に参画する代表者（バングラデシュ）の他、地域毎の代表者（Regional Vice President＝RVP）が選出されており、こちらも一部が改選となりました。

RVP NOP（North Pacific）	：日本
RVP US/CEP（Central Pacific）	：米国
RVP SOP（South Pacific）	：ニュージーランド
RVP Asia East	：マレーシア
RVP Asia West	：スリランカ

アジア太平洋地域の地域代表者に関するプロフィールは、こちらをご参照下さい。

6. 最後に

新型コロナウイルスの急拡大により、急遽 Web 開催となった 2020 年 4 月の IFALPA 年次総会では、準備不足の部分があったことは否めませんでした。今年は 3 日間の Web 年次総会に加え、アジア太平洋地域の会議も実施され、合計 4 日間の充実した総会開催となりました。その一方で、出席者同士の情報交換という点においては、Web 開催の難しさをあらためて感じさせられました。

国籍や文化的背景は異なっても、「航空機運航」という共通用語を介して、世界中の沢山のパイロットと友人関係を構築出来るのが、IFALPA という組織に参画する大きな醍醐味の一つと言えます。それを達成するには、直接対面し議論を交わしながら、お互いのコミュニケーションをより円滑にすることが、必須であることは間違いありません。

その次の機会は、本来であれば 2020 年 3 月に開催予定だったシンガポールの地で、2022 年 3 月に予定されています。来年こそは彼の地で、IFALPA 年次総会が実現出来ることを多くの IFALPA メンバーが願っています。

以 上